

4) 昆虫類

これまでの調査では田代地区及びその周辺域において19目214科1053種の昆虫類が確認されています(資料4参照)。

特徴としては、樹林、草地、湿地などの環境条件を反映して、樹林性の種を主体とした多様な昆虫相を有する地域となっています。主な種としては以下のとおりです。

- ・樹林：ヒカゲチョウ、コジャノメ、クロコノマチョウ、ツクツクボウシ、ニイニイゼミ、ミンミンゼミ、ハルゼミ、モリチャバネゴキブリ、クチキコオロギ、マダラカマドウマ、ヒメスズ、ムネアカオオアリ、コツノアリ*、ヒラタウロコアリ*など (*：特に常緑広葉樹林を指標)
- ・樹林～林縁：ヒメアカネ、アオスジアゲハ、クロアゲハ、カラスアゲハ、モンキアゲハ、ウラギンシジミ、ルリシジミ、ヒメボタル、オオオバボタルなど
- ・林縁～草地：ウスバキトンボ、オオシオカラトンボ、シオカラトンボ、ミヤマアカネ、オニヤンマなど
- ・草地：カメムシ類(クモヘリカメムシ、クロアシホソナガカメムシなど)、ミヤマアカネ、ヤマトシジミ、イチモンジセセリ、コブノメイガ、ツトガ、シロオビノメイガ、ショウリョウバッタ、トノサマバッタ、カネタタキなど
- ・湿地、水域：ハグロトンボ、ミヤマカワトンボ、ヤマサナエ、ゲンジボタル、ヘイケボタル、ヒラタコミズギワゴミムシ、シジミガムシ、ヒメガムシ、ツヤドロムシなど

また、改変に伴って出現した裸地では主に河川中流域の河原などに見られるカワラバッタが数個体確認されました。石礫の多い裸地部の環境が河原に類似しているため、周辺地域(大井川の河原など)から侵入、生息しているものと考えられました。

確認された昆虫類のなかで、ハルゼミ(1997年5月、2002年4月に鳴き声を確認)は、環境庁編(1982)第2回自然環境保全基礎調査(緑の国勢調査)における「日本の重要な昆虫類」の指標昆虫として指定されている種です。

なお、参考資料として、埋め立て期間に実施した各種昆虫調査結果(チョウ・トンボ類を対象とした見取り調査、スニーピング調査、ライトトラップ調査、ベイトトラップ調査)を資料編(資料4)に示しました。

		
<p>ベイトトラップ調査(トノサマバッタ、イボバッタ、ツツレサセコオロギ、ウシアブ、ヒメスズメバチなど)田代 2003.9.14</p>	<p>ウラギンシジミ 田代 2019.5.31</p>	<p>クロアゲハの幼虫 田代 2003.9.14</p>
		
<p>カワラバッタ 田代 2003.9.14</p>	<p>ミヤマカワトンボ 田代 2019.5.31</p>	<p>ヤマサナエ 田代 2018.5.17</p>

写真 4.2.4 昆虫類

5) 水生動物

水生動物は魚類を含め合計 102 種が確認されました（資料 5 参照）。

このうち埋め立て工事中に確認された種類は丘陵地の沢や溪流などに生息する種が主体であり、その多くは汚濁の少ないきれいな水域に分布するものでした。良好な水域を指標する代表的な種としては、チラカゲロウ、ヒラタカゲロウ科の各種、オジロサナエ、ミルンヤンマ、フサオナシカワゲラの一種、シマアメンボ、ヒラタドロムシ科、DB タニガワトビケラ、ニンギョウトビケラ、カタツムリトビケラなどが挙げられます。埋め立て工事以前に存在していた沢や水路の大半は埋め立てにより消失しましたが、一部の流域（2カ所の沢）を保全地域として残したため、従来からの良質な環境要素が維持されたためと考えられます。

改変後の主な結果を以下に示します。

- 1998 年改変前の調査で確認されていたモクズガニは、改修後の 2003 年 5 月 26 日に改修水路に掛かる橋のたもとに「爪」が落ちているのを確認しました。その後、2019 年、2020 年には改修水路（近自然水路）上流の直近沢部で 1 個体が確認され、2021 年には沢部では確認できませんでしたが、調整池下の溜まりで 2 個体が確認されました。また、同年には近自然水路内でヤマトヌマエビを確認しました。両種はいずれも生活史の一時期、海に出る必要があります（通し回遊¹）、これらの種が埋め立て後も確認されたことは、工事後においても、これらの種レベルでは海との連続性（伊太谷川⇄大井川⇄太平洋）が確保されていると評価できます。なお、モクズガニについては、近くの住民の話によると、2002 年までは丁仏参道入り口付近の沢で、夜間カンテラを使って本種がよく捕れたとのことでした。
- 沢部から近自然水路にかけてタカハヤ、カワムツ、カワヨシノボリ、ニシシマドジョウなどの魚類が確認されています。これらは造成以前にも普通に生息していた種類です。このほか、改変前にオオヨシノボリ（淡水性両側回遊）が確認されましたが、確認場所は田代地区の下流でした。
- 底生動物のコドラート調査の結果では、サワガニ、ヒメフタオカゲロウ、フタツメカワゲラの一種、EB クロヒメガガンボなどが優占し、全体に非汚濁性種が多く、対象地域水域の水質の良さが反映された結果となっていました。
- 水生のホタル類ではゲンジボタル、ヘイケボタルが確認されています。確認場所はワンド部や丁仏参道入り口付近の流水部などです。また、これらの水域では、水生ホタル類の幼虫の餌となるカワニナも確認されています。

		
モクズガニ 田代 2019. 6. 14	サワガニ 田代 2020. 11. 18	タカハヤ 田代 2016. 6. 1
		
カワムツ 田代 2018. 6. 17	ゲンジボタル 田代 2018. 6. 17	カワニナ 田代 2018. 6. 18

写真 4. 2. 5 水生動物

¹ 通し回遊：成長のための成育場と子孫を残すための産卵場として、海と川を利用する生活史のことを指す。これにはいくつかのパターンがあり、モクズガニは川を主な生息場とし、産卵場として海を使う降河回遊。これにはニホンウナギなども入る。ヤマトヌマエビは海、川双方を生育場とするが、産卵場が川である淡水性両側回遊。オオヨシノボリやアユなどがこれに入る。